国定公園・筑波山地域における公共サイン整備の現状と課題

Current Situation and Issues with Public Signs Development and Preservation in the Mt. Tsukuba Area of Quasi-National Park

洪　雪俊
HONG Xuejun

１．はじめに

（１）研究背景

現在、自然公園の「利用計画」に含められている公共サインは、デザインの不統一が課題と認識されている。公共サインは様々な役割を果たす施設であるが、不適切な配置や管理により、情報伝達、景観面や安全面で、様々な課題が発生する恐れがある。特に公園の指定者（環境省）と管理者（都道府県）が異なる国定公園では、より丁寧な整備と管理をする必要があると考えられる。公共サインの統一化を図るために主体ごとに指針はあるものの、指針の内容や実施状況、目的の達成状況、設置側の整備と管理の現状がまだ不明確である。

（２）研究目的

本研究は、自然公園の公共サインに関わる指針の現状と課題を把握し、水郷筑波国定公園の筑波山地域を事例として、公共サインの設置現状および管理の現状と課題を把握し、対象地域内の公共サインに関係する各種指針同士および指針と実際の整備状況との関係から、公共サイン整備の考え方について考察することを目的とする。

（３）研究方法

①自然公園の公共サインの指針の現状と課題を把握するために、国が指定する国立・国定公園を対象にインターネット検索方法で、該当公園のために作成した指針の有無状況や指針の内容を確認した。

②筑波山地域の公共サインの設置現状と課題を把握するために、2022 年 2 月、5 月、9 月に現地調査を行い、写真撮影方法と GPS ロガー（GARMIN ETREX 20x）で、公共サインの状況と位置情報を記録し、公共サインの状態（目視で汚れ度合・内容の判読可否・構造物の破損）を把握した。また、公共サインのデータベース化を行い、公共サインの設置場所を、QGIS(3.24.3)を用いて、設置主体別の空間的分布および特徴を把握した。

③公共サインの各設置主体から整備の現状と課題を把握するために、公共サインを 10 枚以上設置した設置主体（8 件）を対象に、設置・管理・撤去と基準などについて、アンケート調査を行った（2022 年 9 月～11 月実施）。全主体から回答回収できた。

２．国立・国定公園に関わる公共サイン指針

環境省と国土交通省の指針をもとに、該当国立・国定公園では公園ごとに指針を作成していた。2022 年 2 月時点、国立公園では 34 公園のうち 10 公園、国定公園では 58 公園のうち 1 公園で指針が作成されていた。筑波山地域では、県・市・ジオパークが関連指針を作成していた。指針に関する課題として、①国が指定し都道府県が管理する国定公園では、公園ごとに作成された公共サインの設置と管理に関する指針がほとんどなく、公共サインに関する考え方が国立公園より不明。②指針作成前に設置された公共サインの、管理・更新・撤去の基準などは示されておらず、指針作成前と作成後に設置された公共サインの整合が不明。③環境省と国土交通省の指針を参照した部分以外の事項が、どのような基準で決められたのか不明。④自然公園の特徴や地種区分などの関係を考慮して整備しているか不明。⑤指針が対象自然公園の特徴をどう把握し、デザインに反映させるのか、それを誰が決定するかの過程が不明。⑥指針の有効性や、目的達成および維持管理の評価基準が不明、と指摘できる。

３．筑波山地域の公共サインの設置現状

調査対象地域にて把握できた計 385 枚の公共サイン中、設置主体の記載があるサインは 227 枚（59%）（国（4%）、県（16%）、市（8%）、神社（4%）、民間団体（3%）、複数（24%））であった（図１）。41 件の設置主体を把握でき、注意サインが最も多かった。ほとんどの公共サインは特別保護地区（51%）と第 1 種特別地域（46%）に設置されていた。

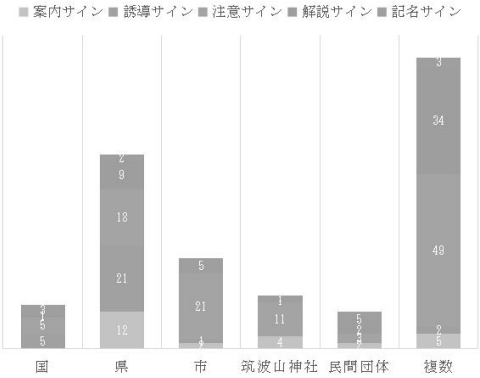

図１　主体別設置数（n=227）

公共サインの設置場所は、トレイルの入口・分岐点・休憩場所・山頂駅に多く集中するなど、自然資源・観光資源・整備施設など複数の要因に応じて、様々な種類の公共サインが集積していた。また、公共サインの種類も主体ごとに特徴があり、特に県と筑波山神社は注意サインが、筑波山地域ジオパークは解説サインが多かった。主体別分布の特徴をみると、国および市は一定間隔で全域に点在している一方、その他の主体は拠点を中心に公共サインを設置しており、多様な主体によって種類の異なる公共サインが集中して設置されている場所が複数あった。こうした場所では、デザインや表示の仕方が統一されていなかった。

汚れ度合い、文字と絵の判別状況、構造物の破損状況から、設置者不明や判別不可の公共サインを含め、対策をとる必要がある公共サインは全体の 43%を占めていた。その中、注意サインと解説サインが多いことから、来訪者の安全性確保や情報伝達に課題があると言える。

４．筑波山地域の公共サインの整備管理の現状

設置主体のほとんどが国定公園であることを認識して公共サインを設置しているものの、環境省の「自然公園等の施設技術指針」を参照している主体は少ない一方、茨城県の「筑波山地域観光案内サインガイドライン」が多く参照されていた。ただ、主体ごとに参照指針や参照箇所は異なり、基準と決まりがない主体も存在した（表１）。

表１　主体別指針の参照箇所

	記載内容	書体	レイアウト	色彩	構造物	設置場所
国の指針	2	2	2	2	2	2
県の指針	3	3	3	4	3	2
市の指針	1	2	2	2	1	1
ジオパークの指針		1	1	1		
コンペ・設置委員会を立ち上げる						
担当者が決める	2	1	1	1	1	2
決まりはない	2	1	1	1	2	1

（数値は設置主体数）

設置および設置時には指針を参照するものの、更新や撤去に関しては指針を参照せず、その基準は設置主体によって異なり、統一した具体的な方法がないという課題が見られた。これは、筑波山地域の公共サインが統一されていない原因の１つだと考えられる。また、環境省以外管理・撤去の頻度は設置頻度より低い傾向が見られた。

今後の管理方針と方法において、設置後の管理と撤去に関する回答は少なく、公共サインの維持管理について、各主体の認識は低いと考えられる。

５．まとめと考察

筑波山地域では、公共サインのデザイン・配置・管理が統一されていないため、デザインおよび状態が異なる公共サインが集中する場所が複数箇所あった。トレイルや拠点に応じた種類の公共サインが設置されていないため、筑波山地域の利用者に対して効果的な整備がなされているとはいえず、むしろ自然風景地を乱している可能性もある。

こうした課題が存在する原因として、①既に設置されている公共サインのデザインが指針に基づいていない、②根拠とする指針が複数あり、設置主体ごとに指針と基準が異なる、③デザイン・配置・管理の基準が具体的に明示されていない指針がある、④同じ設置意図がある主体が多数存在し調整されていない、⑤設置主体ごとに管理基準が異なり、方法や手順が統一されていない、ことが挙げられる。

配置については、環境省の指針も他の指針も地種区分との関係は示されておらず、自然公園において「利用規制計画」に含まれる公共サインと「保護規制計画」が結び付いていないこともうかがえる。

今後は、自然公園ごとに公共サインの設置だけでなく設置後の維持管理基準を示す指針を主体間で共有する必要があり、場合には指針を協同して作成することも考えられる。

公共サインの整備において、維持管理の方法や体制を充実することで、自然公園を保全しつつ、情報伝達、安全面、景観面でそれぞれの役割を発揮することができると考えられる。

Abstract: With Mt. Tsukuba as a reference object, this study aims to understand the current situation and issues surrounding guidelines about public signage in quasi-national parks, as well as the current situation and issues surrounding management. The analysis was carried out utilizing the guidelines' content, field research, and questionnaire survey methods. Consequently, inconsistent management methods, poor management awareness, and inconsistent public signs have resulted from the different guidelines referenced by the establishment units. Therefore, each unit must improve its maintenance with its management methods and systems.